

KOGA IDOL

今月の古河っ子

いいこが育つ古河



稲葉 洸介 くん

(平成29年10月生まれ・尾崎)

初めてのお祭り。お神輿かつげるように大きくなろうね！
(父：和弘、母：由佳)



四辻 柎彩 ちゃん (右)

(平成27年10月生まれ・坂間)

明るくて優しい柎ちゃん。いつまでもねーねーと仲良しでいてね♪
(父：英樹、母：祐佳)



内田 遥翔 くん

(平成29年9月生まれ・長谷町)

遥翔は、家族の宝物だよ♥元気にすくすく大きくなってね。
(父：英賢、母：美紀)

お子さんの写真を募集中！ <対象> 0～3歳の市内在住のお子さん <応募方法> メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、hisho.kouhou@city.ibaraki-koga.lg.jp(☎秘書広報課)へ申し込みください♪



わたしの夢

人から信頼される 医者を目指して

本部真凛亜さん 古河第二小学校6年生

私は、将来大人になったら、医者になりたいです。私の家はお父さんもお母さんも医者で、二人で経営している病院で働いています。私は幼い頃から、お父さんとお母さんが働いている姿を見てきました。その姿は忙しくて大変そうだけど、患者さんが元気になっていくのを見ると、働きがいがあり、楽しそうだという感じがしました。その姿を見て、私も医者になりたいと思いました。私も将来、お父さん、お母さんのような医者になって、たくさんの人を助けたいです。



キラリ☆輝く人たち

目標を持って活力のある人生を

坂田敬一 さん(砂井新田・91歳)



2013年から本格的に絵画を始めたにもかかわらず、毎年のように展覧会で入賞している坂田さん。戦争や3度がんを患い闘病するなど、さまざまな経験で培った感性や覚悟から生み出される絵画からは、生き生きとした躍動感があります。91歳になった今もたくさんの絵を描き続ける坂田さんに、これからの目標を伺いました。

戦争体験を生かして

17歳の時に経験した太平洋戦争。陸軍航空隊の所属で、特攻隊を志願していた坂田さんは、自分の命を投げ打ってでも国を守るという強い信念を持っていました。日に日に戦況が悪化していき、配置されている飛行場の爆撃が続く日々。特攻の順番を待っている中で終戦を迎えた日は、今でも鮮明に覚えていると言います。

この経験が何事にも力強く取り組む原点となっているそうです。

心を動かす絵画の原点

終戦後、大蔵省に入庁しましたが、自身の会社を起業したいという思いから、生まれ育った横浜から妻の故郷である古河市に移り住むことになりました。

仕事中心の忙しい毎日でしたが、欠かさず行っていたのが好きな風景のデッサン。小学生の時に描いた絵を先生に褒められたことがうれしくて、時間があるときは絵を描き続けていると話します。

描かれている風景画や人物画は、心に訴えかけるような躍動感や迫力を感じさせます。そこには、どんな困難も乗り越えて前進していく坂田さんの力強い生き方が映し出されているようです。子どものころと同じように、絵画を純粋に楽しもうとする気持ちが大切なのかもしれません。

さらなる高みを目指して

本格的に絵を描いてみようと思ったのは、86歳の時、妻から言われた「あなたの完成した絵を見たことがない」という何気ない言葉。

そこからアクリル画に挑戦し、87歳の時に開催した「第26回日本の自然を描く展」で見事入選。それをきっかけにもっとアクリル画の勉強をしたいという飽くなき探究心が芽生えたそうです。

絵画に対しての専門的な知識が無かったため、市内にある絵画教室「アトリエ・オギノ」へ通い始めました。毎回新たな発見があり、とても刺激的な日々を送っているそうです。その後も、多くの作品が入賞していますが、まだまだ



だ成長の途中と笑いながら話します。絵画歴は浅い坂田さんですが、何ごとにも納得するまでとことん成し遂げるといふ強い気持ちを持って、今取り組んでいるのは「二科展」への出展。そこで入賞するために100号の作品を制作中だと言います。いつまでも元気でいるために常に自身に目標や課題を与え、それを一つ一つ克服していかなければいけないと話す表情は生き生きとしていました。